

# 児童文学作家



## 宮川ひろさん

子どものころに見たもの聞いたものは、心の中にいつまでも生き続けます。たくさん受けとめて。

春がくるから

冬もいいんさ いいんさ

「麦畑でかげろうを見つけたときに兄が言った言葉です。幼いときに兄からももらったこの言葉は、ずっとわたしの心に刻まれています」と書き上げた色紙を見ながらやさしい顔で話す。宮川さんは、四十年以上も児童文学作家として第一線で活躍

されており、ふるさとへの思いを込めたたくさん作品を発表している。

一九二二(大正十一年)、利根郡東村千鳥(現利根町千鳥)に生まれ、ここで幼少期を過ごした。「集落にあった二十五軒はまるで一軒の家のように、住む人みんなが温かくて、家族のように暮らしていました。当時のこ

とは今でも全部思い出せます」

一九六三(昭和三十八)年、四十歳の時、「子どもをめぐる文化教室」で講師の坪田譲治さん(児童文学作家の話)を聞いたことがきっかけとなり、同氏のもとで童話を学び児童文学の執筆を始める。その後、日本児童文学者協会に入会。発表した作品は、第八回赤い鳥文学賞をはじめ、数々の賞を受賞した。

「小さいころに、四歳年上の兄が畑の中で、よく自然の絵本を読んで聞かせてくれたんです。また、母親からは、お金を大切に使うことを教えられました。ふるさとは、一生懸命に生きていて、作品になる大人が何人もいました。この人たちを見てることが好きだったんですよね」

一九七一(昭和四十六)年に発表された『春駒のうた』は、まさにこのふるさとを舞台にして書かれた作品である。

「終戦の年に、一番年上の兄が四十代で他界し、姉がとても苦労していましたので、しばらくはふるさとへ帰ることもできませんでしたが、心はいつもそこに帰っていました。『春駒のうた』を書きたいという思いはそこで育つたのだと思います」

最後に、子どもたちに対してのメッセージを聞くと、「子どものころに見たもの聞いたものは、心の中にいつまでも生き続けます。いろいろなものから何かを受け取ることが大事、たくさん受けとめてください」とま

### ◆プロフィール◆

みやかわ・ひろ 1923(大正12)年3月15日、利根郡東村千鳥(現利根町千鳥)生まれ。東村尋常高等小学校平川分教場などの教員を務める。新日本童話教室で童話を学び、日本児童文学者協会に入会。1978(昭和53)年、「夜のかげぼうし」で第8回赤い鳥文学賞を受賞。その後も発表した作品で数々の賞を受賞する。東京都国分寺市在住。主な著書に「るすばん先生」、「春駒のうた」、「さくら子のたんじょう日」などがある。



世代を超えて愛され続ける宮川さんの作品



- ・農作業体験(田植え)
- ・リンゴの実摘み
- ・玉原高原散策
- ・座禅(迦葉山弥勒寺)
- ・そば打ち体験
- ・イチゴ狩り

5月24日(土)・25日(日)

# 春秋



- ・枝豆の収穫・食体験
- ・農作業体験(田んぼの話・田の草取り)
- ・味噌まんじゅう焼き体験
- ・ブルーベリー狩り

7月6日(日)

## 田舎体験ツアー

春に田植え、夏に草取り、秋に稲刈り、冬に餅つきと季節に合わせて4回の田舎体験ツアーを実施。参加者は総勢82人。農作業体験や果樹収穫、地域交流会などで「沼田」を体感しました。



# 夏冬

12月6日(土)



- ・餅つき体験
- ・しめ縄づくり
- ・温泉入浴
- ・既移住者宅訪問
- ・大根収穫体験



10月19日(日)

- ・農作業体験(稲刈り、稲を束ねて干す作業)
- ・かかし作り
- ・リンゴ狩り
- ・大根などの野菜収穫体験

